

【学会情報】

日本ブドウ・ワイン学会西日本地域研究会 第22回研究集会に参加して

川崎 訓昭

京都大学

Reports on 22<sup>nd</sup> Meeting of Western Division of ASEV Japan Chapter

Noriaki KAWASAKI

KYOTO University, Department of Agriculture

日時：2020年2月22日（土）

場所：京都大学 北部総合教育研究棟 益川ホール

1. Aurélie ROLAND氏（Montpellier SupAgro :  
モンペリエ農業科学高等教育国際センター）  
『“From grapes to wine: How to manage the varietal  
thiol biogenesis?”（邦訳「ブドウからワインへ：  
単一品種のチオール生合成について」）』
2. Patrice LALLEMAND氏（Montpellier SupAgro :  
モンペリエ農業科学高等教育国際センター）  
『“How to enhance the cultural heritage of “Terroir”  
wines thanks to the PDO classification: the example of  
Burgundy wines”（邦訳「原産地呼称による「テ  
ロワール」ワインの文化遺産価値を高める：ブル  
ゴーニュの例」）』

報告1 Aurélie ROLAND氏

ここ20年で最も研究されているワインの3つの品種チオールについての研究成果が報告された。4MMPおよび3MHは《チオール前駆体》と呼ばれる無臭のアロマ前駆体（酵素または化学的に切断されることでアロマ化合物を生成する無臭の分子）である。アロマ前駆体が酵素により科学的切断されるこ

とでアロマが現れる。ここ20年間の研究の進捗状況について年代ごとに解説が行われ、チオール前駆体が成熟中にブドウに蓄積し、最適な濃度はブドウの品種、ヴィンテージ、テロワールにより異なることと、ワイン中のチオール前駆体とチオール量との間には明確な相関関係がないことが示された。

報告2 Patrice LALLEMAND氏

ワインの文化・遺産としての価値を高める概念としての「テロワール」の説明が行われ、テロワールは、「自然環境と人的要素の相互作用のシステムに基づいた、独特の文化的特徴、実践的知識、実行の全体の効果を人のコミュニティが歴史上発展させた地理的領域である。その実践的知識によって、その地域とそこに住む人々が作り出した文化/遺産のアイテムとして生産物と尽力が認知されるようになった独創性と信頼度を明らかにする。」のことである。

このテロワール概念と密接に関連するのが地理的表示（Geographical Indication）である。地理的表示（GI）は、品質、評判、またはその他の特性がその地理的起源に関連する製品を識別するために使用される特徴的な記号であり、地理的表示制度の活用により価格プレミアムが得られ、地域農業の持続的な農業生産が可能となるだけでなく、農業生産資源や

伝統的な生産ノウハウやコミュニティの維持にも寄与していることがブルゴーニュの多くの事例とともに、紹介された。